令和5年度
総務政策環境常任委員会
行政視察報告

坂井市視察時の様子

越前市視察時の様子

視察の概要①

◎視察実施日

令和5年10月16日（月）～令和5年10月18日（水）

◎参加者

委 員 長：日髙 和広
副委員長：友石 司
委　　員：黒木 正、黒木 雅由、黒木 健二、帆足 武男

視察の概要②

◎視察先及び調査事項

【福井県坂井市】

・坂井市オンデマンド型交通「イータク」について

【福井県越前市】

・メタバース移住相談・交流会について

■坂井市オンデマンド型交通「イータク」について

福井県坂井市の概要

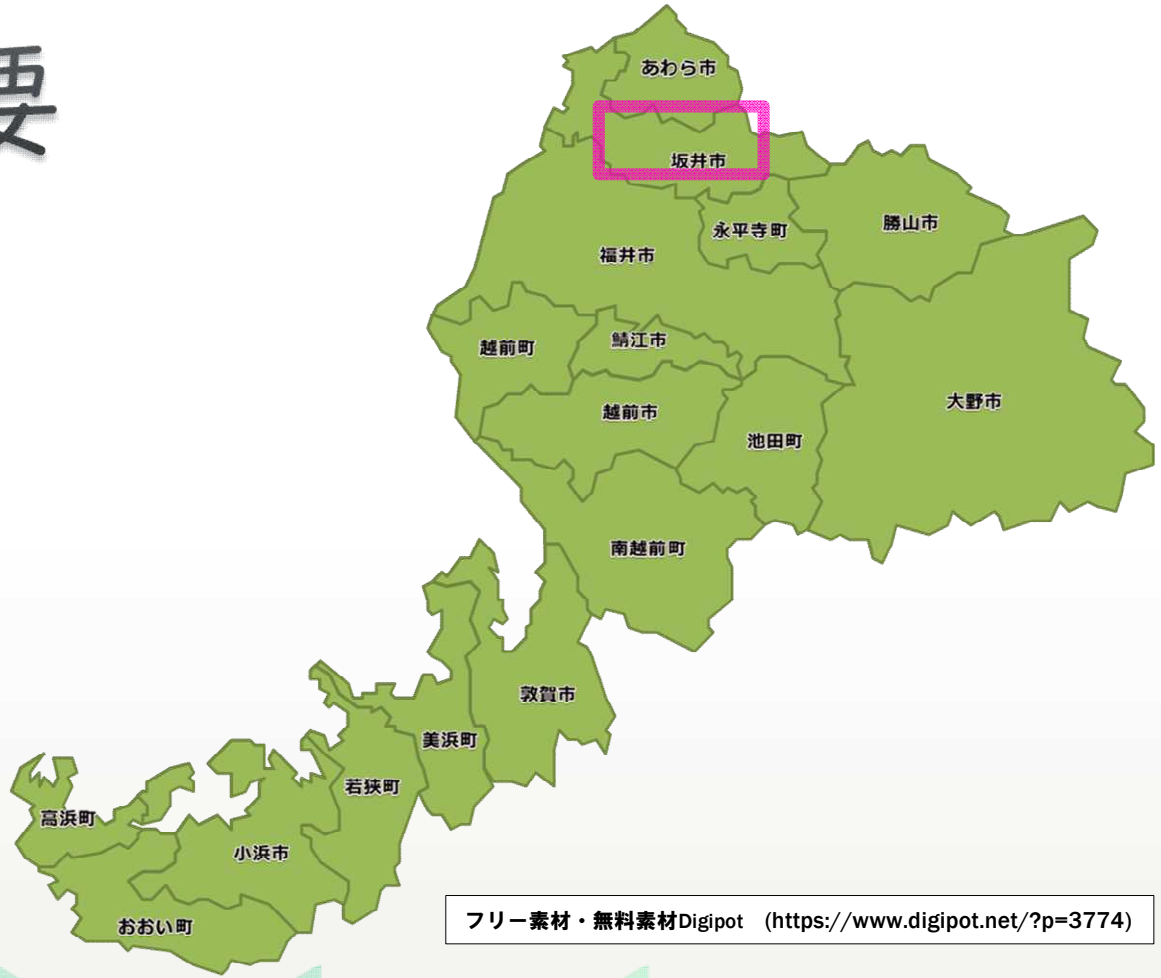
【人　口】89,055人（令和5年10月）

【世帯数】33,229世帯（令和5年10月）

【面　積】209.67㎢

福井県の北部に位置し、平成18年に坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町の4町が合併してできた。

旧三国町は日本海に面し、暖流の影響で雪が非常に少ない。一方、内陸にある坂井市の中心部である旧丸岡町は積雪が多くなっている。

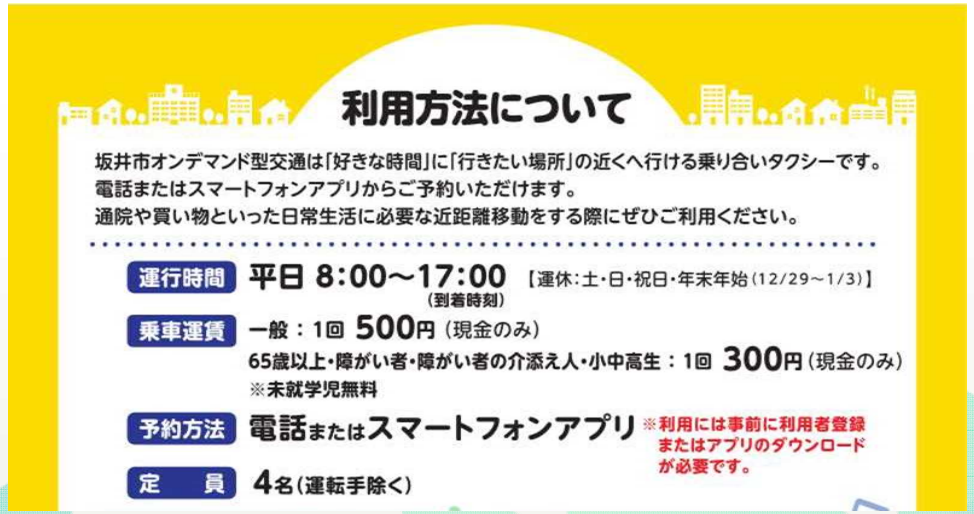


フリー素材・無料素材Digipot　(https://www.digipot.net/?p=3774)

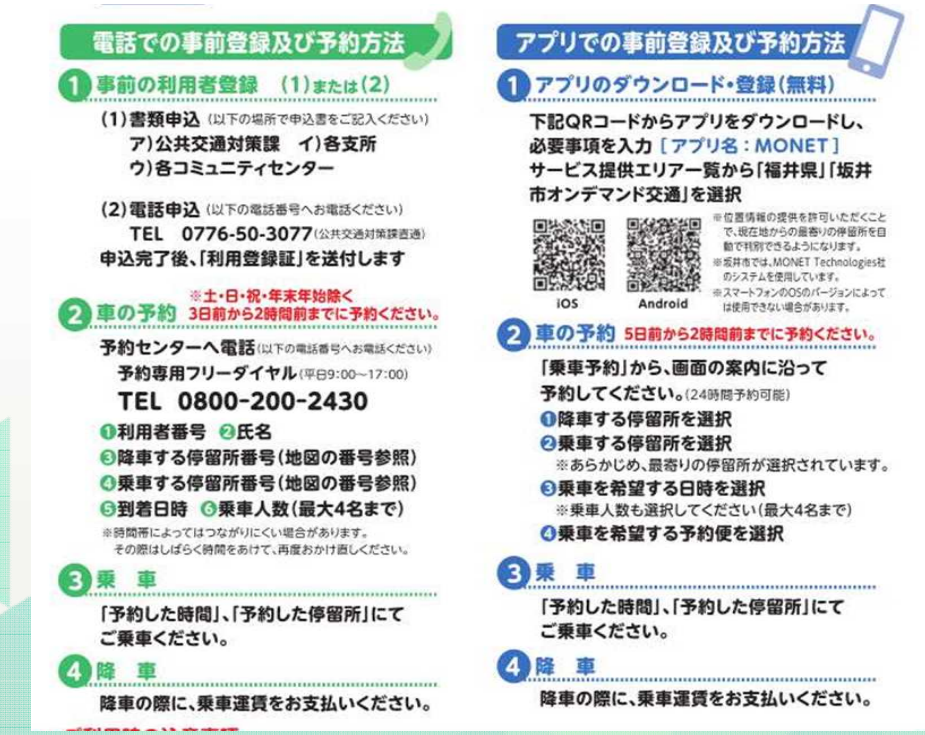
福井県坂井市

■坂井市オンデマンド型交通「イータク」について

市民の定時路線型のコミュニティバスの接続ルートを廃止し、次世代型地域交通推進事業について、新たに予約型の乗合交通手段であるオンデマンド型交通を実施している。



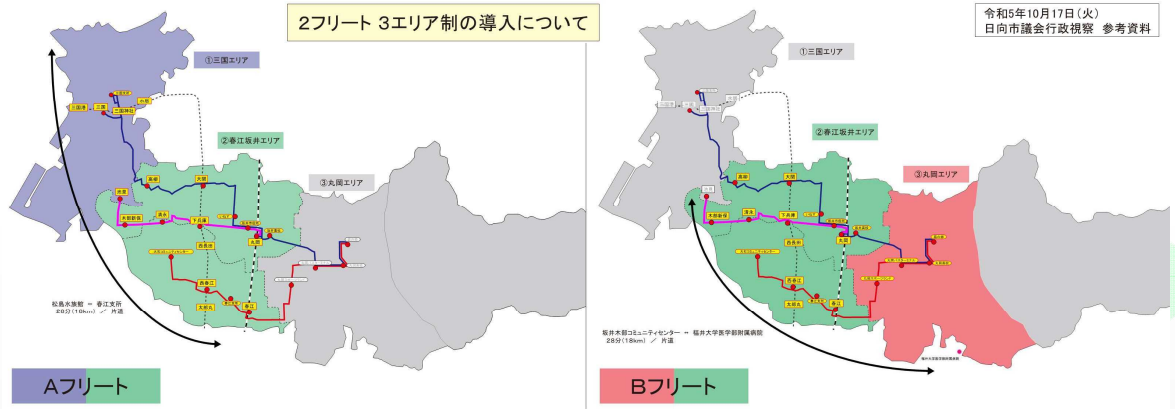
▲「イータク」利用案内ガイドブック。坂井市HPより抜粋。
(https://www.city.fukui-sakai.lg.jp/kokyokotsu/kurashi/toshi-keikaku/kotsu/on-demand.html)
ガイドブックには、停留所情報のほか、利用方法などの情報が掲載されている。



▲電話・アプリからの事前の予約が必要となる。

この事業は、交通空白地の解消と交通弱者対策を兼ね備え、市内タクシー事業者2社と委託契約により、利用者の利便性を図っている。

当初は、事業者の猛反発もあったようだが、役割分担の理解促進により、交通事業者と役割分担が整理されている。



◀▲令和３年度より実証運行を実施し、令和５年10月１日よりオンデマンド型交通の本格運用が開始する。コミュニティバスの基幹ルートは、民間事業者が事業主体となる路線バス化とする方向で準備中。
(坂井市説明資料より抜粋)

■坂井市オンデマンド型交通「イータク」について

～福井県坂井市視察を終えた各委員の所感①～

・坂井市のオンデマンド型交通「イータク」は、人口減少と高齢化社会には、避けて通れない問題と考える。しかしながら、本市に於いては、坂井市のような寒冷地の土地柄ではなく、また、タクシー事業者が5社実働しており、共存共栄の観点から導入は難しいと感じた。しかしながら、先進地事例を視察して、未来志向の先例としては感銘を受けた。

・従来のコミュニティバスを廃止して、「イータク」に移行する決断をした事は大変、勇気のいる選択だったと感じた。21年改選後の市長の意向での取り組みとは言え、綿密な調査と細やかな準備を経た上のシステムは素晴らしい物でした。これからもより完成された物を目指すとの事であり、見守りながら参考にするべきである。

■坂井市オンデマンド型交通「イータク」について

～福井県坂井市視察を終えた各委員の所感②～

・坂井市は、4町合併により誕生した自治体であるが、元々のエリア間の移動手段については、従来のルートや時刻が固定されたコミュニティ交通の欠点を補う形で比較的短距離の移動を想定して運行が始まったと理解できる。運行開始からまだ時間を経ていないので、実際の事業運用を行っていく上で生じる問題点の把握、予約方法等での全世代に渡っての使い勝手等の今後の検証が待たれる。また本市に置き換えて導入を考えた場合、全市的なシステムとしては面積の広さから導入のハードルは高いものになる可能性も感じたところである。

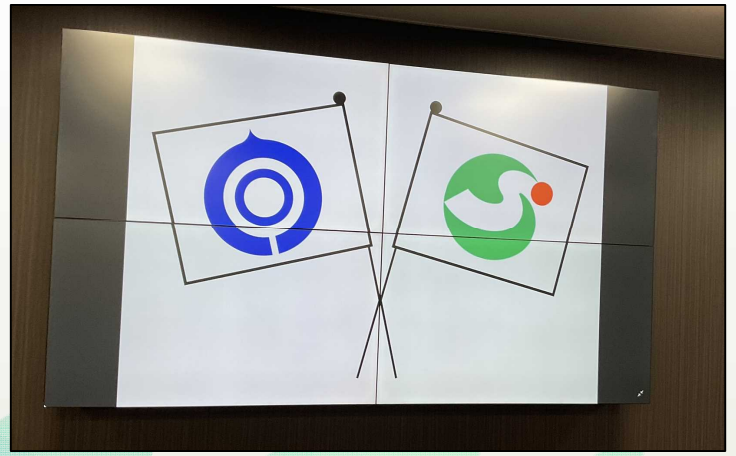
福井県坂井市

■坂井市オンデマンド型交通「イータク」について

～福井県坂井市視察を終えた各委員の所感③～

・住民との十分な検討や実証期間を設け、実施にこぎ着けている点、さらに時間を置いて、住民サービスの視点から進化させている点に感銘を覚えた。

坂井市視察の様子



■メタバース移住相談・交流会について

福井県越前市の概要

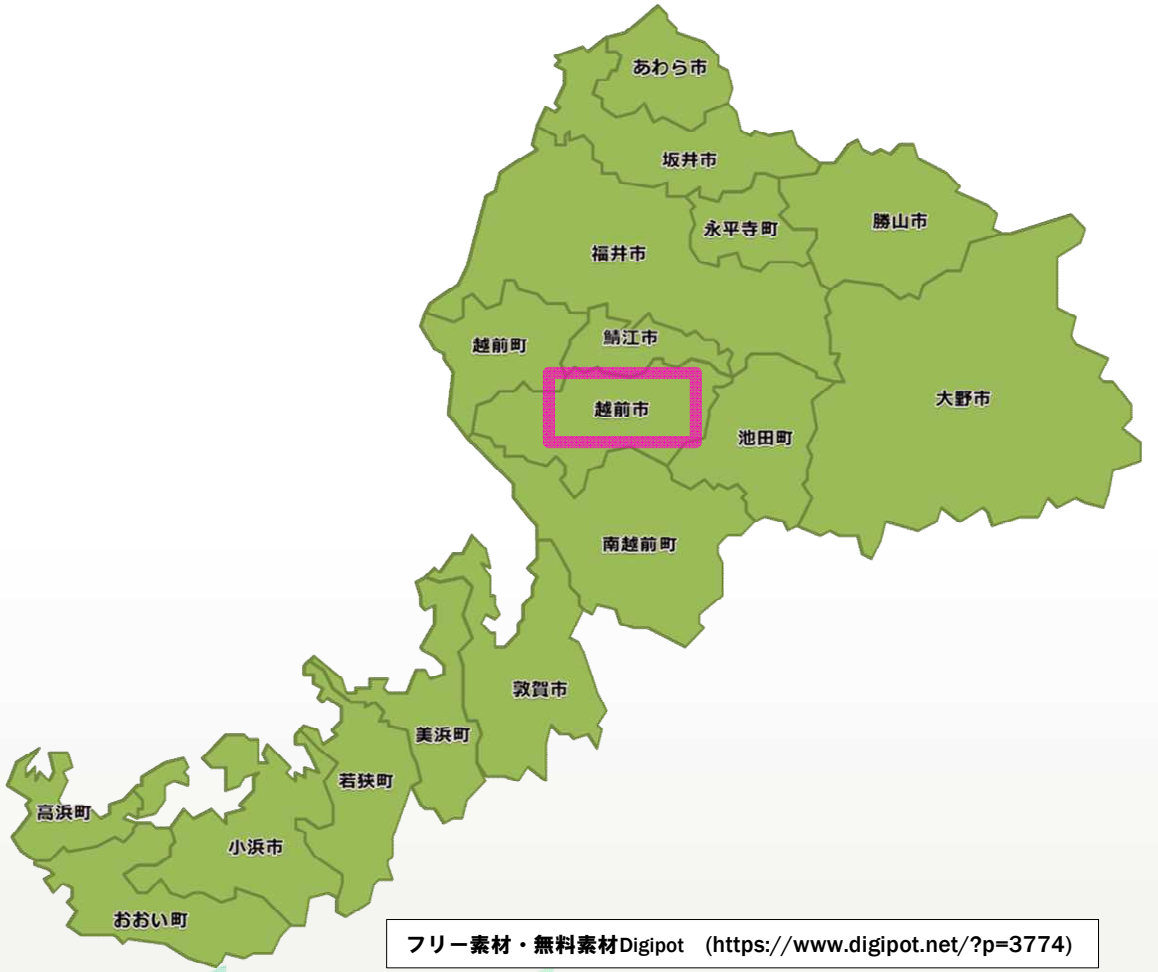
【人　口】79,859人（令和5年10月）

【世帯数】31,248世帯（令和5年10月）

【面　積】230.70㎢

福井県のほぼ中央に位置し、三方を山で囲まれた武生盆地の中央部に市街地を形成している。ごくわずかに越前海岸から離れており、内陸都市である。

気候は、夏は高温多湿、冬は降雪量が1メートルを超えることもある日本海側特有の気候で、豪雪地帯に指定されている



フリー素材・無料素材Digipot　(https://www.digipot.net/?p=3774)

福井県越前市

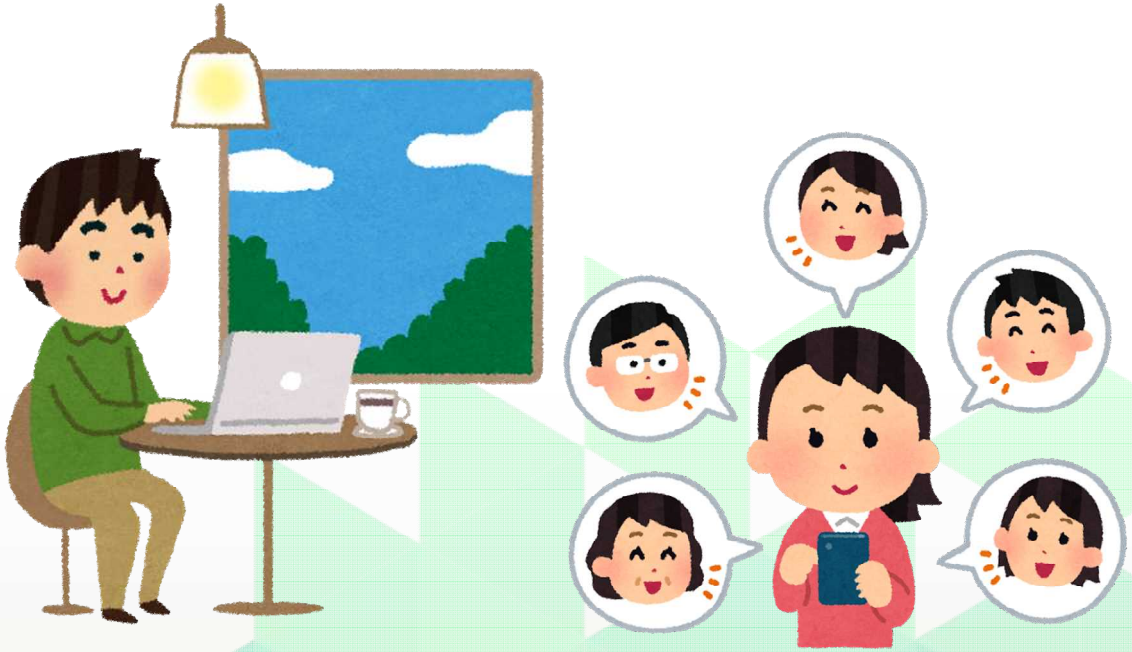
■メタバース移住相談・交流会について

メタバース（仮想現実）空間を活用した移住相談や交流会のプロジェクトを推進している。現地もしくはイベント会場まで行かずに全国どこからでも参加が可能で、また個人情報を開示することなく気軽に相互交流が出来ると言う新しい形でアピールしている。

▲近くにいる人しか話が聞こえないので、グループでの雑談や一対一の会話といった、現実に近い形での交流が可能である。10月時点ですでに２回開催されている。

越前市HPより抜粋(https://www.city.echizen.lg.jp/office/030/010/virtualsummit.html)

◀越前市視察時の様子。
実際にメタバース移住相談・交流会で使われている仮想空間上の会場を操作することもできた。



同様に、メタバースの積極的な活用の一つとして「こころの保健室」を開設し、対面で相談が困難な対象者とコミュニケーションが可能な体制を構築している。

■メタバース移住相談・交流会業について

～福井県越前市視察を終えた各委員の所感①～

・メタバースそのものの利用範囲としては観光分野にも広げていくとのことであったが来春の北陸新幹線開通を控え、越前市が越前市自体のPRに力を注いでいることがよくわかった。そもそもメタバースは、その中身よりも他の自治体がやっていないことをやることによって越前市のブランディングを高めていく為の手段であり、そういった意味ではこの事業は成功しているのではないかと感じた。

・当初、メタバースの意味と取り組む目的が完全に理解出来なかったが、「メタバースに取り組む事で、これから当局が未来を見据えて取り組もうとしている姿勢を内外に示したい」との説明を聞きやっと納得が得られた。また、課長の「若い職員の新しい考えを後押しする事が我々の仕事です」の言葉には頭が下がる思いであった。

令和5年度 日向市議会 総務政策環境常任委員会 行政視察報告

■メタバース移住相談・交流会について

～福井県越前市視察を終えた各委員の所感②～

・コロナ禍で対面形式が難しい時に、新たな手段としてメタバースを活用した先見の明は素晴らしいと感じた。しかし、数年前にメタバースへの世間的認知度はとても低く、庁内でも理解を得ることへの難しい中で予算の確保につなげたのは担当者の「このまちのために」の熱意だと思う。

・事業内容としては、今後さまざまな分野で効果が期待できる仮想空間。現状は移住施策の他にも、子どもたちへのITスキル向上のための発表会や、心のケアなどにも活用していて成果も上がってるとのこと。今後、仮想エリア内での自治体運営を行っていく中で、ブロックチェーン技術の活用や、仮想通貨の運用など注力していきたい。

■メタバース移住相談・交流会について

～福井県越前市視察を終えた各委員の所感③～

・メタバースそのものの利用範囲としては観光分野にも広げていくとのことであったが、北陸新幹線開通を控え、越前市が越前市自体のPRに力を注いでいることがよくわかった。

越前市視察時の様子

総務政策環境常任委員会

委員長	日髙　和広	
副委員長	友石　司	
委　　員	黒木　正	黒木　雅由
	黒木　健二	帆足　武男

越前市役所

丸岡城(坂井市)